

第1弾

「現状と課題」 知ってほしい！水道事業の現在地

水道を取り巻く環境の変化 増えるコスト・減る人口

蛇口をひねればいつでも出てくる安全な水。水道水をそのまま飲めるのは、世界でも



わずか11カ国しかありません。

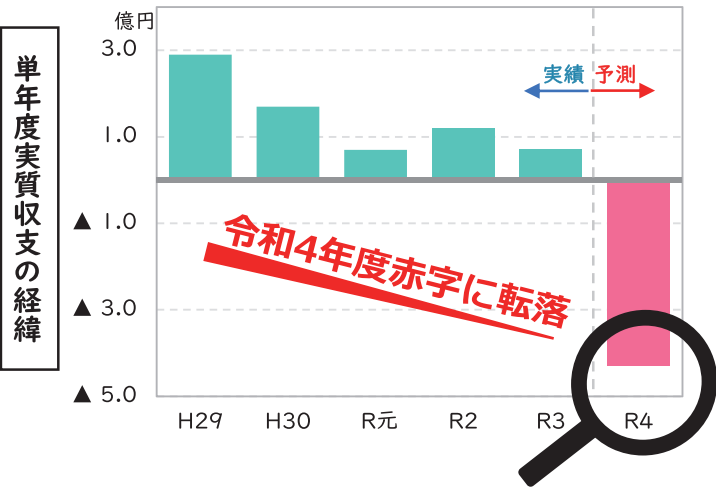
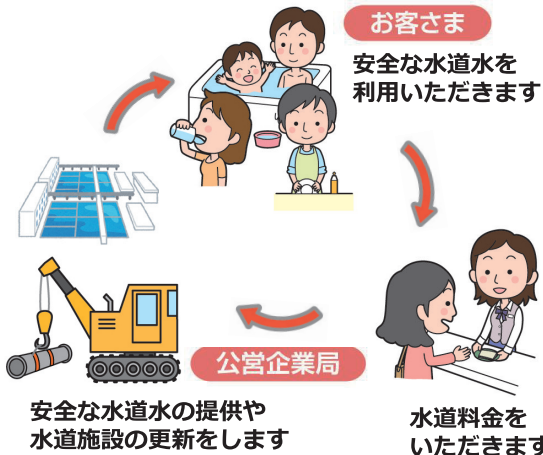
このように安全な水を安定して提供できる水道を次世代に確実に引き継いでいくには、健全な経営を維持しながら、老朽化施設を更新し、また、災害への備えを着実に実施していく必要があります。

しかし、今、松山の水道事業の経営は、事業を取り巻く環境の変化で、非常に厳しい局面を迎えています。そこで、皆さんに松山の水道の現状と課題を知ってもらうため、経営状況などを2回に分けてお知らせします。

水道事業は「独立採算制」

水道事業は皆さんの支払った水道料金で支えられています。

市民の皆さんに、安心して水道水をお使いいただくために必要な施設の整備と維持管理の経費は、「税金」ではなく、「一般の行政サービスとは別のお財布である「水道料金収入」で賄われています。これを、独立採算制と



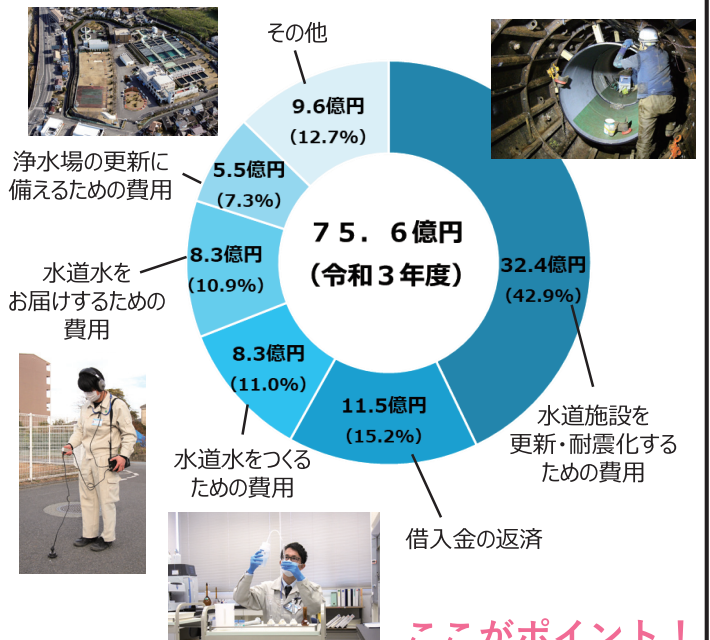
松山市の水道事業は、平成15年度以降、人員を削減するほか、業務を効率化し、経営努力を重ねた結果、平成18年度から令和3年度まで実質黒字を確保してきました。しかし、人口減少や節水型社会への転換などで、水道料金収入が年々減少する一方、施設の老朽化対策や耐震化などの施設整備費が増大しており、令和4年度単年度実質収支が、17年ぶりに赤字に転落する見通しです。

令和4年度単年度収支
料金収入の減少、施設整備費の増大が要因
赤字転落の見込み
平成17年度以来17年ぶり

厳しさを増す水道のお財布事情

水道料金の使い道

水道料金は、どのように使われている？



ここがポイント！
古くなった水道管の取替、施設の耐震化、過去の施設整備のために借りたお金の返済に約6割が使われています。

裏面
水道事業が抱える課題
へつづく

* 冬本番！水道管の凍結に注意しましょう *

気温が氷点下になると、屋外でむき出しになっている水道管は、水が凍って出なくなることがあります。あらかじめ、保温チューブや布で巻くなど、防寒対策をお願いします。凍ったときは、布などをかぶせ、上からぬるま湯をかけてください。



水道事業が抱える課題

課題 1

水道料金収入の減少

給水人口の減少、節水機器の普及などの影響...

水道を維持するための財源になる水道料金収入は、給水人口が減っていることや節水機器の普及などの影響で、平成29年度から5年連続で減少しています。

今後この傾向は続くと見込まれ、財源の確保がさらに厳しくなります。



これからますます苦しい経営状況に...

今と昔、どのくらい使う水の量が変った？

【節水機器の普及事例】



課題 2

老朽化した水道管の更新

老朽化対策に待ったなし!

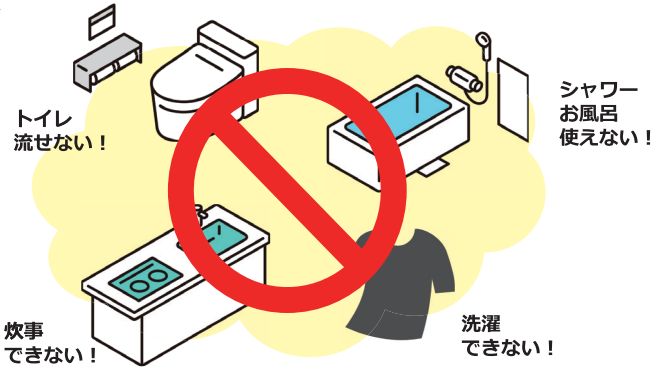
松山市では、高度成長期に整備した水道管が更新時期を迎えています。水道管の老朽化は、破損による漏水事故などの発生リスクが高まるため、計画的に更新していく必要があります。



水道管の復旧は、一般的に3日、災害時には、10日以上かかります。

R3 硬質塩化ビニル管 残存率 12.4%

しばらく水が使えません!

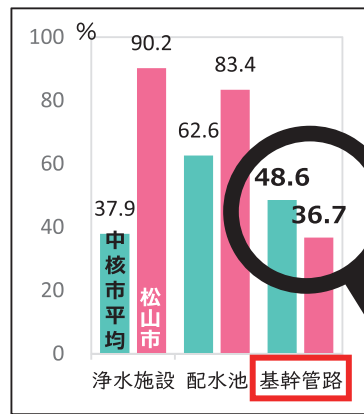


課題 3

大規模災害に備えた施設の構築

近い将来発生が懸念される南海トラフ地震などに備え、水道施設の耐震化や応急給水栓の整備を計画的に進める必要があります。現在、浄水場と配水池の耐震化は概ね完了し、全国水準を下回っている基幹管路の耐震化などに重点的に取り組んでいます。

耐震化の状況(R2年度末時点)



取組

③ 応急給水栓の整備



R3 応急給水栓 47カ所 整備済

災害時、市民の皆さんに生活用水をできるだけ早く届けられるよう、令和6年度までに指定避難所74カ所に整備完了を目指しています。

取組

② 重要施設への給水ルートの確保

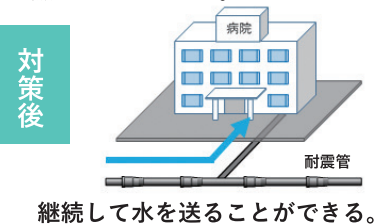
災害時の医療・救護活動に必要な水を確保するため、重要施設(救急医療機関や救護所)までの給水ルートの耐震化は、令和7年度完了を目指しています。

R3 救急医療機関 14カ所 救護所 16カ所 整備済

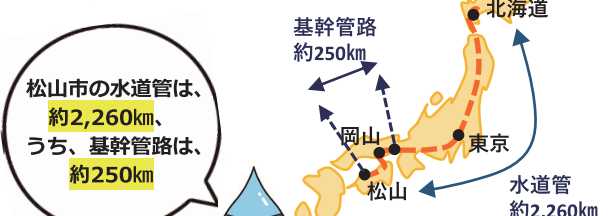
対策前



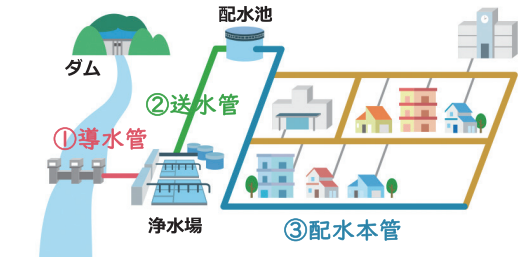
対策後



基幹管路ってどのくらいあるの??



災害時には、断水による市民生活への影響を最小限にとどめることが求められるため、水道の要である基幹管路(①導水管 ②送水管 ③配水管)を計画的に耐震化しています。令和10年度に耐震適合率48%を目指しています。



取組

① 基幹管路の耐震化

次回は、水道事業の今後についてお届けします。